

“救世主の国” = エルサルバドルを救うことが日本を救う

所属	海星中学・高等学校	実践者	吹田沙織
対象	中学2年生	時間数	6時間(45分×4回、100分×1回)
場所	教室	実践教科	技術・家庭(家庭分野)
ねらい	エルサルバドルの現状を知り、エルサルバドルが抱えている課題について理解を深める。また、異国・異文化理解から自国である日本の現状を振り返り、日本も含め世界の課題であることに気づき、課題解決のため、自分たちでもできる活動を考え、実践できるようにする。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆先生、途上国へ行ってきました ①アイスブレーキング <u>世界の国名、何か国を知っていますか？</u> ②途上国のイメージ…ポップコーン方式により発言 ③エルサルバドルの紹介…現地の様子を写真で紹介 ④途上国のイメージと実際のエルサルバドルの比較	パワーポイント プリント
	2	◆エルサルバドルをイメージしよう ①アイスブレーキング <u>バースデーチェーンでグループ作り</u> ②この写真は何だろう？ …エルサルバドルに関係する写真を見て、何の写真か考え、エルサルバドルがどのような国か想像し、意見を出し合う。 「コーヒー農家」「カエルキャラバン(防災教育)」「小学校」「警官」 ③エルサルバドルの現実を知る …写真の説明を読み、イメージと現実を比較し、事実を知る。	フォトランゲージ
	3	◆エルサルバドルが抱えている問題 ①エルサルバドルの4つの問題！？ …前回の写真の様子がエルサルバドルの問題だと認識する。 ②原因はなぜ？ …関心のある問題を1つ選び、なぜ、そういう状況なのか原因を考える。 ③どうすればいい？…現状を改善するための方法を考える。	プレスト、KJ 法
	4	◆エルサルバドルだけの問題ではない！？ ①世界の中で似たような状況が起きている！？ ②めぐり巡って日本にも！！ …自分の問題でもあることに気づく ③僕の宣言…自分や世界のために自分ができていることを考える。	プリント
	5	◆異文化体験と環境に配慮した調理にチャレンジ！！ ①伝統料理プブサとエルサルバドル産のコーヒーゼリー作り ②エルサルバドルで活躍する日本人の紹介	調理実習 パワーポイント
成果	エルサルバドルという今までに聞いたことのない国に関心を持てるようになり、世界にも興味を持てるようになった。また、途上国に対するイメージに思い込みや偏見があることを意識でき、事実をきちんと見て、その国の課題に気づくことができた。遠い国の話ではなく、自分の暮らしにもつながりがあることを理解できた。		
課題	1つずつのプログラムに対し、意見を出すなどの子どもたちの取り組みに時間がかかり、最初に計画していた時数よりも時間を取るようになった。多文化を楽しく学べるゲームなどのアクティビティをもっと工夫して取り入れることで、子どもたちの活発な動きを引き出せると感じた。		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「貧困とは何？学校・教育の大切さ(負の連鎖を利用)」

1 子どもの活動の流れ

① 世界にはどれだけの国があるか？

6つのテーブルに分かれて座った。アイスブレイクとしてプリントに知っている国名を書けるだけ記入し、記入した数を競うゲームをする。記入した国名を発表し、どれだけの国を知っているか確認する。

② 途上国のイメージを挙げてみよう。

発表した国のいくつかを2つのカテゴリーに分け、何で分けられているのか考える。先進国と途上国に分けていたことを発表し、先生が途上国へ行ってきたことを知る。途上国のイメージを答えてもらい、意見を板書する。

③ エルサルバドルはどんな国？

パワーポイントでエルサルバドルの紹介を見る。教師が体験してきたことや気づいたことも含めて話す。(内容は、現地の生活面や産業、学校の様子、人々の表情や教師が現地の人と交流している写真を見せ、なるべくいい印象を持ってもらえるものばかりにし、負の部分はあえて見せないようにした。)その後、パワーポイントの内容をクイズ形式にしたプリントを配布し、答えを記入しながら、エルサルバドルについての内容を振り返った。最後に、板書してあった途上国のイメージを再度、確認させ、実際に紹介されたエルサルバドルという途上国を見て、今まで持っていた途上国のイメージと比較し、気づいたことなどの意見をグループでシェアした。

この時限のねらい

途上国というと貧困、飢餓、戦争など負のイメージを持っている子どもたちに自分たちが持つ途上国のイメージに偏りがあることに気づかせる。イメージとは異なるエルサルバドルに関心を持ち、今後の学習に積極的に参加できるようにする

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 知っている国名をアメリカやイギリスなど先進国が多く出ると予想していたが、競争意識が芽生え、様々な国名を出してくれた。しかし、エルサルバドルは出てこなかった。
- ◇ 他教科でも途上国については学習したことがあったようで、途上国のイメージとして貧困や識字率、飢餓、病気、戦争、児童労働など多くの意見が出た。知っていることなので積極的に発言する生徒が多かった。
- ◇ 授業の初めに、教師が現地のエプロンや現地で作った藍染のストールを身に着けて、授業をしていたため、紹介しているパワーポイントの写真に同じものが出てくると、「本当に先生が行ったんだ！」とか「同じやっだ。」、「他のも絶対に出てくるぞ。」と1枚ずつの写真に興味を持って集中して見ることができていた。このような姿勢からこちらが説明する前に、気になったところを質問したり、指摘したりと積極的に参加することができていた。
- ◇ パワーポイントを見た後、途上国のイメージと比べてエルサルバドルの印象は変わったようで、「暮らしてみたい。」、「どこが途上国なんだろうと思った。」、「思っていたのと全然違った。みんな楽しそう。」といったエルサルバドルに対して好印象の意見が得られた。

3 使用した教材

<教材1> パワーポイント

<教材2> プリント「世界の中の1つに注目してみよう」

2 時限目「エルサルバドルをイメージしよう」

1 子どもの活動の流れ

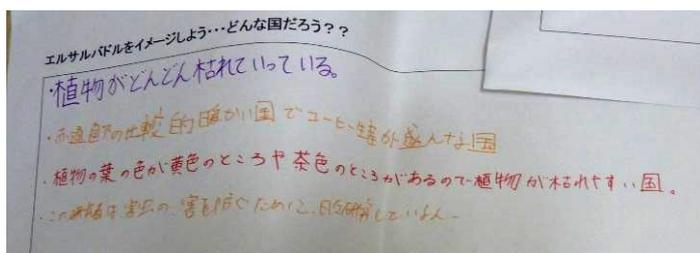
- ① アイスブレイキング グループ作り
アイスブレイクとして、バースデーチェーンを作る。そこから、4つのグループに分かれる。言葉を発することなく、ジェスチャーだけで誕生日順に並ぶ。そこから、4つのグループに分かれる。
- ② この写真は何だろう？
グループごとに配布された写真を見ながら、気づいたことを用紙にまとめ、クラスで発表する。写真は「コーヒー研究所のスタッフ・コーヒー豆・枯れた葉」、「銃を抱えた警官と街並み」、「小学校の教室・算数の授業風景（先生や生徒）」、「カエルキャラバンという防災教育の活動の様子として手当を受けている練習風景・家」の4つの場面。
- ③ エルサルバドルの現実を知る
写真の内容を説明したプリントを読み、イメージしたことと実際のエルサルバドルの現状を比較する。（この授業ではコーヒーの写真についてのみ実施）

この時限のねらい

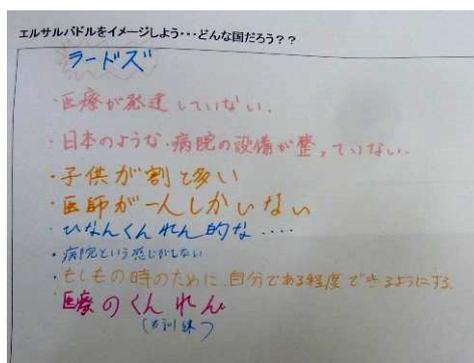
前回の授業でエルサルバドルという国について知り、関心を持てたので、その知識を活かして、エルサルバドルの現状を自分の目で見て、この国が抱えている課題に気づく

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アイスブレイキングはリーダーとなる生徒が数名出てきて、まわりとコミュニケーションを取りながら、チェーンを成功させようと微調整してくれたおかげで、成功させることができた。成功したときは達成感から雰囲気盛り上がり、その後の活動にも積極的に参加できている生徒が多かった。
- ◇ 前回、多少はエルサルバドルという国の説明をしていたため、記憶を頼りに写真をよく見て、1つでも写真から多くの情報を出そうとしていた。
- ◇ 生徒たちが予想していた答えは「環境汚染でコーヒーの生産ができない。」、「医者が村にいないから治療方法を教えている。」、「町がしっかり守られているので安全。」、「みんな、教育が受けられている。」など現実と当たっているものもあれば、異なるイメージを抱いているものもあった。



<フォトランゲージ...生徒が写真から読みとった情報のまとめ>



3 使用した教材

- <教材3> エルサルバドルの写真「コーヒー」、「防災教育」、「小学校」、「警官」
- <教材4> プリント「エルサルバドルの実態①」

3 時限目「エルサルバドルが抱えている問題」

1 子どもの活動の流れ

① エルサルバドルの4つの問題！？

前回の授業で見た写真には、エルサルバドルが抱えている課題の状況が写っており、その課題についての説明のプリントを読む。

② 原因はなぜ？

「コーヒー産業」、「防災」、「教育」、「治安」の4つの課題から関心のあるテーマを1つ選び、なぜ、そういう現状なのか原因を考え、用紙にまとめる。

(事前に宿題として、4つのテーマから1つを選び、この現状が起きている原因と改善方法を考え、プリントに意見をまとめてきている。)

③ どうすればいい？

原因がわかったことで、どうしたら現状を変えることができるか考える。事前に宿題として提出した改善するための方法や意見をまとめたプリントを読み、良い考えのものに☆マークをつける。グループで☆マークをつけたものを発表し、意見を共有する。

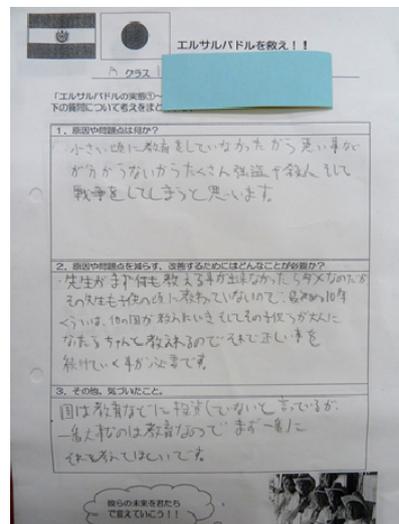
この時限のねらい

自分たちが見た写真の内容を把握し、エルサルバドルが抱える課題を知る。飢餓や戦争といった自分たちの持つ途上国のイメージとは異なるが、この国も途上国として課題を持っていることに気づき、どうすれば現状を変えられるか考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 4つの課題について原因をまとめるときに、宿題として事前に考えてきていたこともあり、活発に意見を出している生徒が多かった。他の人の意見を聞きながら、自分の意見を新たに出すこともできていた。

◇ 教育の課題については、自分たちにも身近なテーマであること、自分たちの環境とは異なることから、関心を示す生徒が多かった。課題について、現状を知り、思ったことなどの意見を聞いてみると、「しっかりとした教育により、経済面でも豊かになり、治安も回復すると思う。」、「国は教育に投資していないと言っているが、一番大事なのは教育なので、まず、第一にそれを考えてほしいです。」など教育に力を入れるべきという意見が多かった。また、他の課題についても「生まれた環境が悪いだけで犯罪に手を染めてしまう人が多い。」、「学校や国の安全が良ければ、観光する人が増え、治安が良くなると思う。」、「支援するにはお金が必要で、簡単には解決できることではない。」などの意見が出ており、原因を理解するとともに現状の課題だけでなく、そこから派生している課題もあることや簡単に解決できないため、今の状況があることを理解できているようだった。



3 使用した教材

<教材5> プリント「エルサルバドルの実態①②」

<教材6> プリント「エルサルバドルを救え!!」(宿題)

<教材7> プリント「エルサルバドルを救え!! T2まとめ編」

4 時限目「エルサルバドルだけの問題ではない!？」

1 子どもの活動の流れ

① 世界の中で似たような状況が起きている!?

コーヒー産業の問題点の1つである多雨によるロヤというカビが発生する問題について注目し、どうして多雨が起これるのかを考え、意見をポップコーン式で発表する。原因の1つとして地球温暖化が考えられていることに気づき、地球温暖化についての資料を読む。資料内容から実は世界で起きている問題の中にも、この温暖化の影響を受けているものがあることを知る。

② めぐり巡って日本にも!!

①の中で、出てきた世界に起きている地球温暖化による影響から、さらにどのような問題が起こるか考え、ポップコーン式で意見を発表する。意見の中から、温暖化が自分たちの生活に影響を与えることに気づく。

③ 僕の宣言

自分たちの生活を守るため、そしてそれがエルサルバドルのため、世界のためになることを意識して、自分でもできる行動を1つ考えて、宣言書に記入し、1人ずつ発表する。

この時限のねらい

今までは、遠い国の話として考えてきた課題が実は、他の国でも抱えている問題であり、それが日本の自分たちにもつながっていることを知る。そして、自分たちのため、エルサルバドルのために課題解決として自分ができることを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 他教科でも温暖化や異常気象については学習をしているようで、カビにかかわる原因も自分たちの知識の中から意見を発表することができていた。
- ◇ 意見の中から「温暖化によって多雨や渇水になること」に着目し、それが原因で「農作物ができないこと」をつながりとして理解できていた。生徒たちは日本の食料自給率について学習しているので、「世界中で農作物の生産量が減っていく」と、「輸入に頼っている日本は食料を手に入れるのに苦勞する。」ことがわかり、より温暖化を自分のこととして危機的に感じるようになっていた。
- ◇ 温暖化の影響について資料を使って紹介すると、抽象的なイメージだった温暖化や環境問題が数値などから具体的に危機的な状況をイメージすることができたことで、「先生、やばいじゃん!!」と今を変えていかないとという意識を持てるようになった。
- ◇ 僕の宣言は、「温暖化を改善するために自分でもできる簡単なこと」としたため、生徒たちはあまり難しく考えず、「電気、充電機を付けっ放しにしない。」、「節水する。」、「物を大事に使う。」など書いて発表してくれた。自分たちにもできることがあると意識してくれた生徒も多かった。

3 使用した教材

<教材8> プリント「地球温暖化」

<教材9> プリント「おいしいコーヒーの真実・フェアトレードという取り組み」

<教材10> プリント「僕の宣言」

5 時限目「異文化体験と環境に配慮した調理にチャレンジ！！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 伝統料理ププサとエルサルバドル産のコーヒーゼリー作り
- ② 試食
- ③ エルサルバドルで活躍する日本人の紹介
エルサルバドルで活躍している JICA ボランティアからのメッセージを見て、世界で働いている人の仕事や JICA の取り組みを知る。

2 子どもの活動の成果・反応 …まだ実施していない

3 使用した教材

<教材11> プリント「調理実習レシピ」

この時限のねらい

エルサルバドルの伝統料理や特産品を使った調理実習を通して、異文化体験と理解を深める。また、エルサルバドルで出会った JICA ボランティアを紹介し、世界で活躍する人の話を聞き、日本や世界に関心を持つ。

■ 全体を通して

1 授業の様子



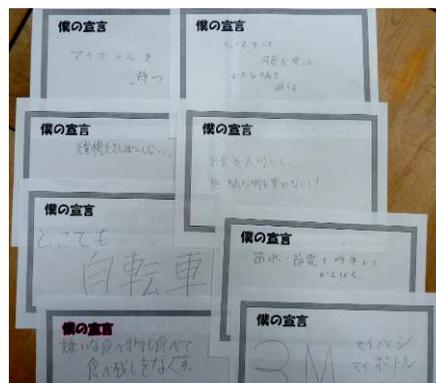
エルサルバドルが抱える課題の原因を深めるためにブレインストーミングを実施した。



<生徒がブレインストーミングで書いた付箋>



グループごとに、エルサルバドルが抱えている課題がなぜ起こるのかを発表し、各テーマの意見を共有した。



<生徒たちが書いた「僕の宣言」>

2 参考文献・資料

- 1) ネットワーク地球村HP <http://www.chikumura.org/environmental/index.html>
- 2) 映画「おいしいコーヒーの真実」HP http://www.uplink.co.jp/oishiicoffee/about_04.php
- 3) JICA教材作成実行委員会 「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～」発行 三刷 2014.3.